

コレクション 番号	属名	形容語 (種小名以下の学名)	品種名	属の日本語表記	品種名読み (日本語で表記される場合のみ、国際栽培 植物命名規約に従い、修正ヘボン式ローマ 字で記入)	植物名の日本語表記	特性情報	備考 (公開を希望しないときは列を灰色に塗りつ ぶす)	導入元・採取地 (非公開)	所在地 (公開を希望しないときは列を灰 色に塗りつぶす)
0001	Camellia	japonica	‘秋の月’	ツバキ	‘Aki-no-tsuki’	ツバキ‘秋の月’	淡い桃色の七弁の一重。花弁に皺やちぢれが多い。平開咲き、輪蕊、中輪。花期は10～4月。葉は広楕円で大形、ゆるく外曲する。	親不明の自然実生。1970年に桜木春一が発表・命名。		名古屋市東山植物園
0002	Camellia	japonica	‘明日香’	ツバキ	‘Asuka’	ツバキ‘明日香’	淡い桃色の八重、数本の雄蕊が一群となる割りしべ、中～大輪。花期は3～4月。葉は楕円で中形。	古くは‘後瀬山’と呼ばれたが、関東に同名異種あり。1971年に佐藤稔が改名。		名古屋市東山植物園
0003	Camellia	japonica	‘綾錦’	ツバキ	‘Ayanishiki’	ツバキ‘綾錦’	淡い桃色に紅吹き掛け絞りの一重。壺状に咲き輪蕊、有香、中輪。花期は2～4月。葉は楕円で中形。葉柄に絹毛あり。葉脈は明白。	親不明の自然実生。1957年に服部純治が選抜・命名。ハルサザンカとする説と種間雑種とする説がある。		名古屋市東山植物園
0004	Camellia	japonica	‘吾妻紋’	ツバキ	‘Azuma-shibori’	ツバキ‘吾妻紋’	白地又は淡い桃地に小絞り～縦絞りの一重、ラッパ咲き、簡しべ、中輪。花期は11～4月。葉は長楕円で大形。	尾張の古い名花。来歴は不明。		名古屋市東山植物園 徳川園
0005	Camellia	japonica	‘紅妙蓮寺’	ツバキ	‘Beni-Myorenji’	ツバキ‘紅妙蓮寺’	紅色の一重。輪蕊、中輪。花期は11～4月。葉は広楕円の中～大形。	「尾張番付」には‘明蓮寺’として記載され、1968年に中村椿協会編成時に佐藤稔が改名。		名古屋市東山植物園
0006	Camellia	japonica	‘千代田錦’	ツバキ	‘Chiyoda-nishiki’	ツバキ‘千代田錦’	白地に紅の縦絞りの一重。簡咲き、茶筌しべ、中輪。花期は2～4月。葉は楕円の中形。	‘秋風楽’の自然実生。愛知県福沢市千代田が名の由来、吉田藤兵衛が命名・発表。堀木与左衛門の作。		名古屋市東山植物園
0007	Camellia	japonica	‘中京美人’	ツバキ	‘Chūkyō-bijin’	ツバキ‘中京美人’	白地に紅の縦絞りの一重。ラッパ咲き、中輪。花期は2～4月。葉は楕円で中形。樹姿は横張性。	親不明の自然実生。1968年に浅井進一が命名・発表。桃地の花を‘中京麗人’という。		名古屋市東山植物園
0008	Camellia	japonica	‘大城冠’	ツバキ	‘Daijōkan’	ツバキ‘大城冠’	白色の八重。蓮華咲き、簡しべ、大輪。20枚くらいの花弁が4、5重に重なり、弁は鐘状に内側に抱えた割り形弁で、咲き進むと弁間が透いて蓮華性を帯びる。葉は長楕円の中形。平坦。鋸歯は微。樹は立性で強健。	古くから名古屋城内に伝来した御殿椿の一つといわれてきた。一枝たりとも城外への持ち出しを禁じていたが、秘かに持ち出した挿し木に成功したものの御殿椿とは呼ばず、思案の末、名古屋城にあやかり大きい冠の名を付けたという。本丸御殿正面に存在した原本は戦災で焼けたが、戦後そのひこばえが成長した。しかし近年の本丸御殿復元事業中に枯死した。		名古屋市東山植物園
0009	Camellia	japonica	‘出羽大輪’	ツバキ	‘Dewa-tairin’	ツバキ‘出羽大輪’	桃紅地の一重。平開咲き、輪蕊、時には唐子咲きも出る。極大輪。花期は11～4月。葉は長楕円で縁が反曲。	名古屋に推定300年の古木がある。一名を‘太平楽’（肥後）。斑入りを‘万才楽’（肥後）。祖父江に古木があったが枯死。岐阜市の慈眼寺に樹齢300年が現在。		名古屋市東山植物園
0010	Camellia	japonica	‘銀盃’	ツバキ	‘Ginpai’	ツバキ‘銀盃’	白色の一重。壺状咲き、輪蕊、中輪。微香あり。花期は11～4月。葉は広楕円の大型。	親不明の自然実生。1967年に小崎真一が選抜・発表。		名古屋市東山植物園

0011	Camellia	japonica	‘白鳳’	ツバキ	‘Hakuho’	ツバキ‘白鳳’	白地の八重～牡丹咲き。大輪。花期は11～4月。葉は広楕円の中形。樹姿はやや横張り性で強い。	親不明の自然実生。1965年に佐藤正一が選抜・発表。	名古屋市東山植物園
0012	Camellia	japonica	‘白妙蓮寺’	ツバキ	‘Haku-Myorenji’	ツバキ‘白妙蓮寺’	白色の一重。太い筒咲き、中輪、筒しべ。花期は11～4月。葉は広楕円の中形。肉厚で葉脈が顕著。樹姿は立性でやや弱い。	1931年「中部椿銘鑑」に名のある古くからの品種。	名古屋市東山植物園
0013	Camellia	japonica	‘花冠’	ツバキ	‘Hanakanmuri’	ツバキ‘花冠’	淡桃色地に紅の縦紋りが入る一重。盃～ラッパ咲き、筒しべ、中輪。花期は12～3月。葉は楕円の中形。やや外曲。樹姿は立性で伸びが良い。	‘卜伴’の自然実生。1965年、桜木喜楽が選抜・発表。	名古屋市東山植物園
0014	Camellia	japonica	‘春の舞’	ツバキ	‘Haru-no-mai’	ツバキ‘春の舞’	淡い桃色地に紅桃色の吹き掛け絞りの八重。抱え咲き、初めは宝珠。大輪。花期は3～4月。葉は広楕円の大型。	親不明の自然実生。1952年佐藤稔が命名・発表。	名古屋市東山植物園
0015	Camellia	japonica	‘本阿弥’	ツバキ	‘Hon’ami’	ツバキ‘本阿弥’	白地にやや青味をおびる一重。筒咲き、小～中輪。花期は1～4月。葉は広楕円の中形。肉厚。樹姿は立性で強い。	三重県菟野町に推定270年の古木がある。1941年「尾張の椿番付」に記載がある。	名古屋市東山植物園
0016	Camellia	japonica	‘一子侘助’	ツバキ	‘Ichiko-wabisuke’	ツバキ‘一子侘助’	濃紅色の一重。猪口咲き、筒しべ、花芯の極小輪。花期は12～3月。葉は楕円の中形。樹姿は立性。	愛知県幸田町の民家の栽培種から選抜。1970年に上田敏郎が命名・発表。雄しべの葯が白く退化・変形した花芯ツバキの第一号品種。	名古屋市東山植物園
0017	Camellia	japonica	‘伊勢大白’	ツバキ	‘Ise-taihaku’	ツバキ‘伊勢大白’	白色の八重。蓮華咲き、筒しべで時に旗弁、大輪。花期は3～5月。葉は楕円の中形。樹姿は立性で強い。	三重県・鈴鹿山脈の南麓の民家から選抜。	名古屋市東山植物園
0018	Camellia	japonica	‘常満寺’	ツバキ	‘Jōmanji’	ツバキ‘常満寺’	桃色の一重。肉厚。筒咲き、筒しべ、中輪。花期は12～4月。葉は長楕円の中形。樹姿は立性で強い。	愛知県犬山市の常満寺に原木があり、‘関戸太郎庵’の実生。1972年に浅井進一が発見。	名古屋市東山植物園
0019	Camellia	japonica	‘寿老庵’	ツバキ	‘Jurōan’	ツバキ‘寿老庵’	桃色の一重。筒咲き、筒しべ、中輪。花期は10～4月。葉は楕円の中形。樹姿は立性で強い。	明治時代から尾張地方にある古い品種。母樹は‘園芸太郎庵’といわれているが、花の色はそれよりも幾分濃く、花形も大きい。花粉を多く作り、結実もよいので、交配母樹として有望視されている。大正初期の尾張番付に記載されている名花。	名古屋市東山植物園
0020	Camellia	japonica	‘加茂川’	ツバキ	‘Kamogawa’	ツバキ‘加茂川’	白色の一重。筒咲き～盃状咲き、筒しべ、中輪。花期は12～4月。葉は長楕円の中形。	尾張の古い花で、1931年「中部椿銘鑑」にはすでにその名があった。	名古屋市東山植物園
0021	Camellia	japonica	‘葛城紋’	ツバキ	‘Katsuragi-shibori’	ツバキ‘葛城紋’	白地に紅の大小小絞りの一重。時には桃地に紅の吹き掛け絞りが入る。筒咲き、筒しべ、小輪。花期は2～4月。葉は楕円の中形。波曲、葉脈明白。縮歯は鋭い。	稲沢市法花寺に原木がある。1970年に中部椿協会が命名・発表。‘絵姿’と混同されやすい。	名古屋市東山植物園

0022	Camellia	japonica	‘紺侘助’	ツバキ	‘Kon-wabisuke’	ツバキ ‘紺侘助’	暗紅色の一重。猪口咲き、筒しべ、小輪。花期は2～4月。葉は長楕円の小形。	尾張地方に古木が多いというが詳細は不明。名は侘助だがヤブツバキ系の品種。	名古屋市東山植物園
0023	Camellia	japonica	‘琴姫’	ツバキ	‘Kotohime’	ツバキ ‘琴姫’	淡桃色の一重。抱え咲き、筒しべ、中輪。花弁は肉厚。花期は11～3月。葉は広楕円の中形、平坦。樹姿は立性で強い。	親不明の自然実生。1965年に桜木春一が選抜・命名。	名古屋市東山植物園
0024	Camellia	japonica	‘孔雀椿’	ツバキ	‘Kujakutsubaki’	ツバキ ‘孔雀椿’	濃桃色または濃紅地に白斑の入る八重。蓮華咲き、割り蕊、中輪。花弁と葉が細長い。花期は4月。	愛知県三河地方に古木が多い。実生をする。親に似た細長い葉の個体が得やすく、育種の楽しみな品種。	名古屋市東山植物園
0025	Camellia	japonica	‘舞扇’	ツバキ	‘Maiōgi’	ツバキ ‘舞扇’	桃地に紅の吹き掛け紋の一重。筒咲き、中輪。花期は1～4月。葉は楕円の中形。樹姿は立性で下枝は垂れる。	‘秋風葉’の自然実生。1970年に桜木春一が命名・発表。新潟の‘舞扇’は別品種。	名古屋市東山植物園
0026	Camellia	japonica	‘三笠の月’	ツバキ	‘Mikasa-no-tsuki’	ツバキ ‘三笠の月’	紅地に白覆輪が入る一重。紅の単色も出る。筒～盞状咲き、中輪。花期は3～4月。葉は楕円の小形。時に変形葉が出る。	‘多福弁天’の枝変わり。1941年「尾張の番付」に記載がある。	名古屋市東山植物園
0027	Camellia	japonica	‘三河数寄屋’	ツバキ	‘Mikawa-sukiya’	ツバキ ‘三河数寄屋’	濃桃色の一重。猪口咲き、筒しべ、種小輪。花期は12～3月。葉は楕円形で小形、平坦。樹姿は立性で強い。	西三河地方の旧家に多数の古木が点在する。1973年に早川博茂が命名・発表。花の斑入りを‘乙姫’という。	名古屋市東山植物園
0028	Camellia	japonica	‘三河雲龍’	ツバキ	‘Mikawa-unryū’	ツバキ ‘三河雲龍’	濃紅色の一重。筒～ラッパ咲き、筒しべ、小輪。花期は2～4月。葉は長楕円形で中形、肉厚。樹姿は立性で強い、枝はよく屈曲。	三河山間部の野生ヤブツバキより選抜。1960年に高津徹一郎の命名。	名古屋市東山植物園
0029	Camellia	japonica	‘三河百合葉’	ツバキ	‘Mikawa-yuriha’	ツバキ ‘三河百合葉’	紅色の一重。花弁は細長い、キキョウ咲き、筒しべ、中輪。花期は3～5月。葉は長楕円形で中形、中折れで波曲。樹姿は立性、枝垂れる。	三河岡崎市三ツ木の民家の栽培品種。鈴木が発見し、稲垣昇が命名。	名古屋市東山植物園
0030	Camellia	japonica	‘二重弁天’	ツバキ	‘Niju-benten’	ツバキ ‘二重弁天’	紅色の一重。筒咲き、小輪。花期は2～4月。葉は楕円の不定形、二重覆輪の錦葉椿。樹形は横張り性。	古くからあったもので、詳細は不明。資料としては1971年「中部椿銘鑑」に記載がある。	名古屋市東山植物園

0031	Camellia	japonica	‘想いの儘’	ツバキ	‘Omoinomama’	ツバキ‘想いの儘’	桃色、白地に底桃、白地に紅の絞りなど多様に咲き分ける八重。散りしべ、中輪。花期は3～4月。葉形は長楕円で中形。葉面は平坦で先端が反曲。	尾張地方に古くから栽培されている品種。詳細は不明。	名古屋市東山植物園
0032	Camellia	japonica	‘尾張富士’	ツバキ	‘Owari-Fuji’	ツバキ‘尾張富士’	極淡い桃色の底白 筒～ラッパ咲きの一重 筒しべ 花の大きさは小輪 花期は2～4月 葉形は楕円の中形の葉 ややよれる	親不明の自然実生。1974年に若山義康が選抜し、佐藤稔が命名。	名古屋市東山植物園
0033	Camellia	japonica	‘尾張侘助’	ツバキ	‘Owari-wabisuke’	ツバキ‘尾張侘助’	桃色の一重。猪口咲、侘び芯の極小輪。花期は2～4月。葉は卵状楕円の小形、平坦。	愛知県海部郡立田の民家で浅井進一が発見。1971年に発表。侘助ツバキの一種。類似に‘寒咲赤侘助’がある。	名古屋市東山植物園
0034	Camellia	japonica	‘さかさ富士’	ツバキ	‘Sakasa-Fuji’	ツバキ‘さかさ富士’	淡い紅色5弁の一重。下向きに咲くことが多い優雅な百合咲き、筒しべ、中輪。花期は2～4月。葉は長楕円で中形、薄い。	親不明の園芸品種の自然実生。 1975年に佐藤稔が命名・発表。	名古屋市東山植物園
0035	Camellia	japonica	‘参平椿’	ツバキ	‘Sanpeitsubaki’	ツバキ‘参平椿’	紅地に白覆輪の一重。ラッパ咲き、筒しべ、中輪。花期は12～4月。葉は長楕円の中形。	知多半島半田市の小栗恒六郎にある。1955年頃に命名・発表。	名古屋市東山植物園
0036	Camellia	japonica	‘細雪’	ツバキ	‘Sasameyuki’	ツバキ‘細雪’	白色の一重。やや抱え咲き、筒しべ、極小輪。花期は1～4月。葉は長楕円の小型。	中部の古い花。初めは‘胡蝶白侘助’と呼ばれた。佐藤稔が命名し、1971年に改名。	名古屋市東山植物園
0037	Camellia	japonica	‘関戸太郎庵’	ツバキ	‘Sekido-Taroan’	ツバキ‘関戸太郎庵’	桃色の一重。筒咲き、筒しべ、中輪。花期は11～4月。葉は卵状楕円、中形。	江戸中期の茶人 高田太郎庵遺愛の名椿、尾張の豪商・関戸家を経て犬山の常満寺に古木があったが、先年に焼失した。他に親戚筋に伝承されており、名古屋椿協会の調査で本物と明らかになった。	名古屋市東山植物園 徳川園

0038	Camellia	japonica	‘絞妙蓮寺’	ツバキ	‘Shibori-Myorenji’	ツバキ‘絞妙蓮寺’	紅地に白斑が入る一重。碗咲き、輪蕊、中輪。花期は11～3月。葉は広楕円の中形。	‘妙蓮寺’の白斑入りで古くから当地方にあった。1960年の発表。	名古屋市東山植物園
0039	Camellia	japonica	‘式部’	ツバキ	‘Shikibu’	ツバキ‘式部’	紅色の一重。唐子咲き、唐子の縁に白い霜をおびる紋り、小輪。花期は1～4月。葉は広楕円の中形。	‘ト伴’の自然実生。1957年に永田鋭明が命名・発表。	名古屋市東山植物園
0040	Camellia	japonica	‘白八朔’	ツバキ	‘Shiro-hassaku’	ツバキ‘白八朔’	白色の一重。筒咲き、筒しべ、中輪。花期は11～4月。葉は長楕円の中形。	中部に古くからある品種。昭和6年の中部椿番付表の上位に記載されていた。	名古屋市東山植物園
0041	Camellia	japonica	‘白一重錦魚葉椿’	ツバキ	‘Shiro-hitoe-kingyoba-tsubaki’	ツバキ‘白一重錦魚葉椿’	白色の一重。平開咲き、輪蕊、中輪。花期は2～4月。葉は楕円で金魚葉、大形でよれる。樹姿は立性。	愛知県三河地方の民家の栽培種。1957年に高津儀一郎が発見・発表。別名は‘白金魚葉椿’。	名古屋市東山植物園
0042	Camellia	japonica	‘白太郎庵(佐藤)’	ツバキ	‘Shiro-Taroan(Sato)’	ツバキ‘白太郎庵(佐藤)’	白色の一重。丸弁肉厚。筒咲き、筒しべ、中輪。花期は12～4月。葉は長楕円の大型。外曲。	親不明の園芸品種の実生。1966年に桜木春一が命名・発表。発見者は桜木春太郎。	名古屋市東山植物園
0043	Camellia	japonica	‘白太郎庵(中部)’	ツバキ	‘Shiro-Taroan(Chubu)’	ツバキ‘白太郎庵(中部)’	白色の一重。筒咲き、筒しべ、小輪。花期は12～4月。葉は長楕円の中形。	親不明の自然実生。桜木春太郎が選抜し、1955年に桜木春一が命名・発表。	名古屋市東山植物園
0044	Camellia	japonica	‘秋風楽’	ツバキ	‘Shufuraku’	ツバキ‘秋風楽’	白色の一重。筒咲き～盃状咲き、筒しべ、やや大輪。花期は12～4月。葉は楕円の中形。樹姿は立性で強健。	尾張に古くからある品種。1931年「中部椿名鑑」にも名がある。	名古屋市東山植物園 徳川園
0045	Camellia	japonica	‘磨墨’	ツバキ	‘Surusumi’	ツバキ‘磨墨’	白色の一重。大盃状咲き、梅蕊、極大輪。花期は2～4月。葉は広楕円の大型。	1800年代に愛知県千代田村で作出されたといわれ、1876年に伊藤永宝の命名・発表。発見者は伊藤七兵衛。	名古屋市東山植物園
0046	Camellia	japonica	‘高嶺の雪’	ツバキ	‘Takane-no-yuki’	ツバキ‘高嶺の雪’	淡い紅色地に白覆輪の一重。ラッパ咲き、ユキツバキ状蕊、中輪、微香。花期は3～4月。葉は長楕円の中形。やや波曲。	別名‘旧の銀冠’。木曾川付近の栽培種を1931年に吉田藤兵衛が命名・発表。	名古屋市東山植物園
0047	Camellia	japonica	‘玉霞’	ツバキ	‘Tamagasumi’	ツバキ‘玉霞’	白色～淡い桃地に紅の吹き掛け紋りの一重。抱え咲き、丸形の5弁の花弁が強く内曲し玉形の花形になり全開時にも崩さない。白地に紫色を帯びた紅の小紋りが調和する珍しい品種。雄蕊筒は茶兜形で基部が縋り乱れもない。中輪。花期は11～3月。葉は楕円形で濃い緑色で艶がありやや薄葉で鋸葉は浅い。	親不明の園芸品種の自然実生。1968年に稲沢市法花町で桜木春一が選抜・発表。命名は名古屋椿協会会長の永田鋭明。	名古屋市東山植物園

0048	Camellia	japonica	‘太郎庵’	ツバキ	‘Tarōan’	ツバキ‘太郎庵’	淡桃色の一重。抱え～碗咲き、簡しべ、中輪。葉は楕円形の中形。葉縁は外曲し、強く波曲。樹姿は横張性、枝は垂れぎみ、樹勢は弱いが、花つき良好。	本品種の出所は不明であるが、優美な花形、上品な丸い蕾は茶席に人気を呼び、尾張ツバキの代表花として、江戸期の大茶人・高田太郎庵の号を名乗って市販されるに至った。	名古屋市東山植物園
0049	Camellia	japonica	‘太郎庵錦’	ツバキ	‘Tarōan-nishiki’	ツバキ‘太郎庵錦’	極淡い桃地に濃い紅の吹き掛け小紋り。時には1～2本濃い紅の大小縦線が鮮明に入る。丸筒形～抱え咲き、花弁は6枚丸形で重ねも厚く各弁とも内曲。弁先はV字に深く切れ込む。葯は大型で花粉も多い。中輪。花期は11～4月。葉は広楕円の中形、平坦。網脈は突出する。縁がわずかに外曲。	‘太郎庵’の自然実生。1953年頃に中山兵四郎が選抜し、1966年に発表。	名古屋市東山植物園
0050	Camellia	japonica	‘太郎閣’		‘Tarōkaku’	ツバキ‘太郎閣’	極淡い桃地に濃い紅の吹き掛け小紋り。時には1～2本濃い紅の大小縦線が鮮明に入る。丸筒形から、抱え咲きになる。花弁は6枚丸形で重ねも厚く各弁とも内曲。弁先はV字に深く切れ込み。葯は大型で花粉も多い。花期は11～4月。葉形は広い楕円形で中形で平坦な葉。網脈は突出する。縁がわずかに外曲。立性で強く、枝もよく伸長し小枝は垂れる。	‘太郎庵’の自然実生。星野由太郎が選抜し、1975年に佐藤稔氏が命名・発表。	名古屋市東山植物園
0051	Camellia	japonica	‘龍田錦’	ツバキ	‘Tatsuta-nishiki’	ツバキ‘龍田錦’	淡い桃色地に大小縦線一重。初めは筒咲きすぐに平開咲き、簡しべ、小中輪。わずかに白覆輪が入る個体もある。花期は秋咲き、葉は長楕円の中形。黒味を帯びた緑色。	愛知県立田村で発見された品種。旧名は‘立田錦’で古くからの品種。別名‘御福錦’（白地の個体をいう）。紅花を‘龍田’と呼ぶ。	名古屋市東山植物園
0052	Camellia	japonica	‘夢枕’	ツバキ	‘Yumemakura’	ツバキ‘夢枕’	淡桃地の紅の縦線が僅かに入る一重。盃状咲き、やや輪蓋、中輪。花期は12～4月。葉は楕円形で中形、葉面に凹凸あり。樹姿は立性で強い。	親不明の自然実生。1968年に浅井進一が選抜・発表。	名古屋市東山植物園